

## 【第2期】南幌町まち・ひと・しごと総合戦略(素案) パブリック・コメント回答一覧 (回答)

町ホームページ及び町広報2月号等においてパブリック・コメント(町民等からの意見)を募集しました「【第2期】南幌町まち・ひと・しごと総合戦略(素案)」に対して、次のとおりご意見をいただきましたので、その内容に対する地方創生推進会議及び町の考え方について公表します。

なお、提出された意見及び地方創生推進会議・町の考え方については、町ホームページ及び情報コーナー(役場、あいくる、ぽろろ、夕張太ふれあい館)においてもご覧いただけます。

＜意見募集期間＞	令和2年2月10日(月)～令和2年3月2日(月) ※22日間
＜素案資料の閲覧場所＞	町ホームページ、役場まちづくり課窓口、情報コーナー(役場・あいくる・ぽろろ・夕張太ふれあい館)
＜応募意見状況＞	①応募者数 1名(持参提出) ②意見件数 1件

番号	該当箇所	意見等の内容	地方創生推進会議・町の考え方
1	【第2期】 総合戦略	<p><b>誘客交流拠点施設整備プランについて反対です。町民が大きな負債をしょいこみます。整備プランがどういうものかわからない？</b></p> <p><b>南幌町も加わり計11の市町村が連携協約を結んだというのもわからない？</b></p> <p><b>あるプランナー業者にまる投げ状況もある様子</b></p>	<p>誘客交流拠点施設整備事業については、町広報誌、町HPにおいて基本コンセプト等をお知らせしてきました。令和2年度においては、基本設計を実施することからこれまでよりも具体的なイメージ図等をお知らせすることもできるとともに、町民の方に参加していただくワークショップやシンポジウムを通じて、誘客交流拠点施設をよりよいものにしていくことができると考えています。整備に係る財源については、町の一般財源の持ち出しが最小限になるよう国や道の補助金や企業版ふるさと納税などの積極的な活用を検討しています。</p> <p>「さっぽろ連携中枢都市圏」は、人口減少・少子高齢社会にあっても、地域を活性化し経済を持続可能なものとし、住民が安心して快適な暮らしを営んでいけるようにするため、地域において、圏域の中心都市の札幌市が関係の深い近隣の市町村と連携し、コンパクト化とネットワーク化により「経済成長のけん引」、「高次都市機能の集積・強化」及び「生活関連機能サービスの向上」を行うことにより、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成することを目的とするものです。札幌市を中心に関係11市町村(小樽市、岩見沢市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村、南幌町及び長沼町)が、2019年3月に連携協約を締結しました。</p> <p>誘客交流拠点施設整備事業に係る事業者の選定については、4月中に事業者の選定に係る募集要項を公表し募集開始、7月まで企画提案書を受付けたのち、応募者のヒアリングを経て、事業者の決定になります。企画提案をもとに、町民の方に参加していただくワークショップやシンポジウムを通じて、町が主体となり誘客交流拠点施設を核としたまちづくりを進めていきたいと考えています。</p>

	<p><b>これまでののはこもの行政、計画実施したもの、計画青写真まで作ったものの、実施できなかったものらの、検証をしっかりとやって下さい。</b></p> <p><b>南幌町は、子どもの遊戯施設が担当のようですが、中央公園を町民と共に考えまともに整備し、次々と子どもや大人が利用できるよう、長く使えるよう常にメンテナンスに気配りすればよいこと。</b></p> <p><b>町民の子供～大人(老人も含む)が元気に暮らしていれば、人は集まって来ます。</b></p>	<p>【第1期】総合戦略においても、行政評価委員会で各年度における評価を実施してきましたが、【第2期】総合戦略については、年1回地方創生推進会議を開催し、事業の評価を実施するとともに、町を取り巻く状況の変化に対応するため、総合戦略の改訂についても行うものとし、柔軟な体制を構築しています。</p> <p>誘客交流拠点施設の整備地は、①スポーツセンター横と、②中央公園内の2カ所を候補地として検討してきましたが、次の4つの理由から中央公園内を整備地として決定しました。1つ目として、スポーツセンター横への商業施設誘致のため、2つ目として、子育て世代へのアンケートにおいて、屋内と屋外遊具の相互利用や冬の中央公園の利用を期待する声が多数あったことからそれらの意見を踏まえて、3つ目として、団地内にある小公園の遊具の老朽化に伴い、それら遊具のある公園機能を中央公園に集約するため、4つ目として、地域の賑わい創出や人材育成のための仕組み作りを図るエリアマネジメントを中央公園を中心としたエリアで進めるため、以上が誘客交流拠点施設の整備地を中央公園内に決定した理由です。</p> <p>いずれにしても、誘客交流拠点施設を中央公園内に整備することで、子育て世代へのアンケートに寄せられた、屋内と屋外遊具の相互利用や冬期間の中央公園の利用を期待する声に応え、多くの世代の人が集まり、賑わいが生まれ、地域の活性化に繋がるものと考えています。</p> <p>人口減少は国における合計特殊出生率を鑑みても避け得ない事象であり、本町においては急激な人口構造の変化を如何に緩やかなものにしていくか、若い世代の移住・定住により急速な高齢化を如何に抑えることができるかが大きな課題ですが、これまでの取り組みの成果と人口をプラスに導く複数の要因から判断し、【第2期】総合戦略における目標人口の達成を目指すため、将来のまちのすがた【ビジョン】『30年後も子ども達といる風景』を描き、その実現に向けて各種事業に取り組むことが重要と考えます。</p> <p>貴重なご意見をありがとうございました。</p>
--	---	--